

# 登壇者一覧

## 基調講演



菊間 一柁

ブルームバーグNEF  
日本エネルギー市場アナリスト



### BloombergNEF

ブルームバーグNEF (BNEF)は、世界の脱炭素化についての戦略的な分析を提供する、ブルームバーグのリサーチ部門です。各国のアナリストが、脱炭素社会の実現に向けての鍵となる最先端の技術、政策、金融動向を追い、排出量の多いセクターを中心にデータやリサーチを日々配信。政府・金融・企業の戦略立案者を中心とする幅広いユーザー層にご活用いただいております。

ブルームバーグNEFで日本のエネルギー市場を中心に担当するアナリストとして2018年に入社。BNEF入社以前は太陽光・サステナビリティ分野における経験を持つ。

— ユーヨーク州立大学ジェネセオ校において経済学と地理学の学士号を取得。  
— デューク大学において環境資源エネルギーの修士号を取得。



武藤 圭亮

経済産業省 資源エネルギー庁  
省エネルギー・新エネルギー部 風力政策室 課長補佐



経済産業省  
Ministry of Economy, Trade and Industry

2008年経産省入省。

2014～15年メキシコ留学、2017～20年に在アルゼンチン日本国大使館勤務と中南米との縁深めながら2020年帰国し新エネルギー課に着任、風力担当となり現在に至る。





## 鮫島 和範

国土交通省 港湾局 海洋・環境課  
推進官



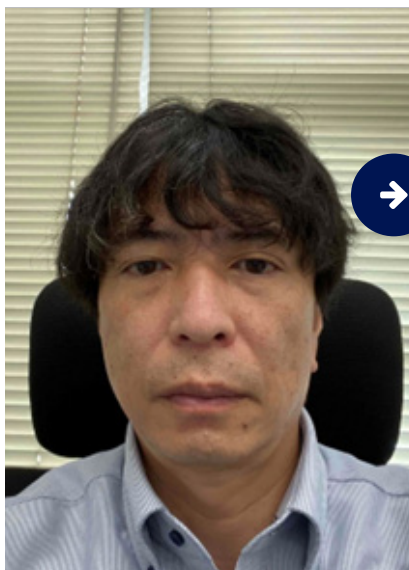
平成14年4月 国土交通省入省

平成28年4月 国土交通省九州地方整備局  
港湾空港部計画企画官

平成29年6月 国土交通省国土技術政策総合研究所沿岸海洋・防災研究部沿岸防災研究室長

平成30年10月 国土交通省航空局安全部  
安全企画課空港安全室長

令和2年4月 秋田県建設部港湾技監



## 河合 崇

国土交通省 海事局 海洋・環境政策課  
技術企画室長



1998年国土交通省(旧運輸省)入省。海上技術安全研究所企画課長、海事局海洋開発・環境政策課総括課長補佐、ジェットロ香港船用機械課長などを経て、2021年7月より現職。主に船舶技術開発政策、環境安全規制政策、海洋開発戦略政策に従事。



# プレゼンテーション



工藤 美香

公益財団法人自然エネルギー財団  
上級研究員



自然エネルギー財団は、東日本大震災および福島第一原子力発電所の事故を受けて、孫正義(ソフトバンクグループ代表)を設立者・会長として2011年8月に設立されました。安心・安全で豊かな社会の実現には自然エネルギーの普及が不可欠であるという信念から、自然エネルギーを基盤とした社会を構築することを目的として活動しています。

2016年より現職。弁護士(1999年登録)。

自然エネルギー財団では、国際送電に関する研究および電力システム改革、自然エネルギーの制度的課題に取り組む。洋上風力関連では、当財団報告書「地域・漁業と洋上風力の共生に向けた提言」、「日本における洋上風力拡大加速に向けた提言—公正で透明な競争環境作りのために」(いずれも2022年6月、共著)のほか、駐日欧州連合代表部「日欧の洋上風力市場における規格、技術基準及び適合性評価:現状とベストプラクティス」(2022年7月)の作成に関与した。

米 国務省インターナショナル・ビジター・リーダーシップ・プログラム(IVLP)招待参加(2019年、エネルギー安全保障)



前川 宏一

横浜国立大学  
都市基盤学科 教授



1980年東京大学土木工学科卒業。1985年工学博士。長岡技術科学大学、アジア工科大学院を経て、1996年東京大学教授。2018年東京大学名誉教授および横浜国立大学教授。専門分野はコンクリート構造工学、建設材料、マルチスケール熱力学。現日本コンクリート工学会副会長。前土木学会副会長。



鈴木 英之

東京大学  
システム創成学専攻 教授



1982年に東京大学工学部船舶工学科を卒業し、1987年に同大学船舶工学専攻博士課程を修了し博士号を取得した。1987年より東京大学工学部講師となり、2003年より東京大学教授を務める。研究テーマは浮体式洋上風車の設計と解析、海洋再生可能エネルギーの利用、大水深ライザーの解析・設計・制御であり、浮体構造物の動的応答、超大型浮体の流体弾性応答の解析と設計にも関心を持って取り組んでいる。





## アーロン・スミス

プリンシプルパワー 新規事業・イノベーション事業部門  
チーフコマーシャルオフィサー



プリンシプルパワーは、浮体式洋上風力の技術およびサービスを提供する世界的なリーディングカンパニーです。世界各国で特許を取得している実証済みの浮体プラットフォーム技術であるWindFloat®は、洋上風力タービンをあらゆる水深において海底の状態にかかわらず設置することを可能にし、世界中の洋上風力の潜在力を引き出し、最高の風力資源を利用したプロジェクトを可能にします。プリンシプルパワーは、開発事業者、独立系発電事業者 (IPP)、電力会社、EPCコントラクターの信頼できるパートナーとして、プロジェクトのライフサイクル全体を通じてお客様をサポートします。世界各地に稼働中70MW、建設中30MW、さらに数GWの商業案件パイプラインを保有しており、浮体式洋上風力技術のマーケットリーダーとして活躍しています。

アーロン・スミスは、2016年にプリンシプル・パワーに入社し、現在はプリンシプル・パワーのチーフ・コマーシャル・オフィサーとして活躍しています。新規事業・イノベーション事業部門を率い、戦略、イノベーション、事業開発、マーケティング、広報を統括しています。プリンシプル・パワー入社以前は、米国国立再生可能エネルギー研究所のエコノミストとして、陸上および洋上風力発電技術に関し、価値の高い研究開発機会を特定するための業務ポートフォリオを指揮し、米国エネルギー省および内務省に戦略的意思決定支援を提供するとともに、業界と協力して革新技術の商業化に取り組んできました。バーモント大学で経済学と政治学の学位を取得しています。



## イエスパー・ミュラー

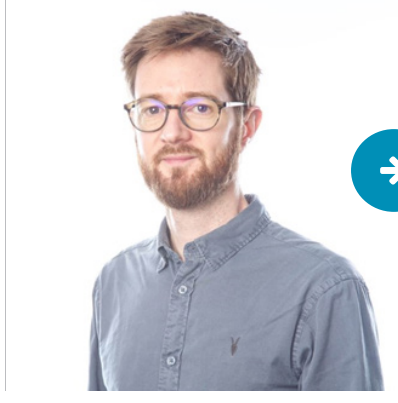
スティースダール オフショア  
営業・事業開発部門ヘッド



スティースダールは、気候変動の緩和に大きな影響を与える技術を開発し、商品化しています。この目的は、基本的に、気候変動を緩和するためにさらに多くのことを行う必要があるという信念に根ざしており、スティースダールはそれを行う独自の立場にあります。スティースダールでは、洋上風力部門の製造可能性と拡張性に重点を置いた浮体式基礎の開発に注力しています。これは、風力タービンタワーに似た管状のスタールモジュールで構成されるモジュール式の「ビルディングブロック」配置によって実現されます。モジュールは、スティースダール独自の接続を使用して波止場で組み立てられ、溶接、塗装といったプロセスは、組立時においては不要となっています。

スティースダールでの役職に就く前は、2012年以来、シーメンスガメサ内のOffshore BoP Innovationsの責任者でした。それ以前は、テクノロジーおよびイノベーション分野のオフショアテクノロジーの責任者でした。

1991年にオーフス テクニカル カレッジを電気技術者として卒業し、2001年にプロジェクトマネージャーとしてシーメンスガメサ (入社時 Bonus Energy) に入社し、2005年にシニアプロポーザルマネージャーに任命されました。オフショアセールスマネージャーとして、大規模な洋上風力発電の契約交渉を担当してきました。2008年にはオフショアテクノロジーの責任者に任命され、2009年にはオフショアエンジニアリングのディレクターに任命されました。



## サム・ストリベンズ

カーボントラスト  
プログラム&イノベーション 浮体式洋上風力部門ヘッド

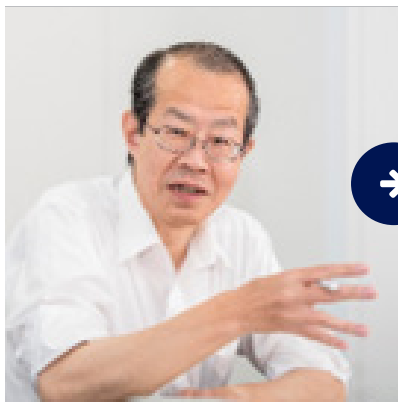


カーボントラストは、世界中の企業、政府、組織のエキスパートパートナーであり、脱炭素化への加速を支援しています。私たちは、脱炭素化された未来への移行を加速するという使命に突き動かされています。私たちは、さまざまなセクターや業界のクライアントやパートナーが気候変動対策に関する目標を達成できるよう支援することに焦点を当てています。

カーボントラストのPolicy and Innovation部門内で浮体式洋上風力発電および海上脱炭素化活動を率いています。これには、Floating Wind JIP プログラムの管理と、多数の国際およびR&D諮問委員会でカーボントラストを代表することが含まれます。

海事業務のバックグラウンドを持ち、乗組員移送船の船長および英国周辺のオフショア風力発電所の船管理の経験があります。

プリマス大学で海洋再生可能エネルギーの修士号を取得しており、浮体式洋上風力タービンプラットフォームの設置段階に重点を置いて研究を行っていました。ウェールズのカーディフ大学で探査および資源地質学の優等学位を取得し、MCAマスター200認定を受けています。



## 道田 豊

東京大学 大気海洋研究所  
国際連携研究センター 教授



1958年広島市生まれ。1981年東京大学理学部地球物理学科卒、83年同大学院理学系研究科修士課程修了。専門は、海洋物理学(とくに海洋表層の流れの構造と変動、それによる物体の輸送、分散、拡散)、海洋情報管理、海洋政策。博士(理学)(1999年、東京大学)。

84年海上保安庁水路部、第28次日本南極地域観測隊(86-87年)、科学技術庁専門職(89-91年)、海上保安庁内諸ポストを経て、00年東京大学海洋研究所助教授。07年同教授。11~15年ユネスコ政府間海洋学委員会(IOC)副議長。15年第8回海洋立国推進功労者表彰。海洋調査技術学会会長、漂着物学会会長、日本海洋政策学会副会長など。



# パネルディスカッション



**高木 伸幸**

ホライズン・オーシャン・マネジメント株式会社  
代表取締役社長

**HORIZON**  
OCEAN MANAGEMENT

2021年設立。三井物産株式会社と株式会社北拓の合併で2021年に設立された本邦洋上風力発電案件向けサービス企業。安全且つ高品質なメンテナンスサービスの提供、欧州先行知見を活かした事業組成段階からの案件支援、資機材品質管理等の幅広いサービス提供を通して、日本洋上風力の安全且つ持続的な発展への貢献を目指す。数々の欧州企業と業務提携を締結・発表。

2004年3月、一橋大学卒業、三井物産に入社。10年間に及び石油ガス向け資機材の貿易を担当。

2016年2月より4年超、スコットランドの洋上エネルギー業界向けサービス会社Global Energy Group社に転出。

洋上風力が進む同地に於いて新規事業開拓を担当し、知見及びネットワークを得る。2021年4月に設立した新会社ホライズン・オーシャン・マネジメント株式に代表取締役として就任。各業界団体・イベント講演等を通じて、欧州事例や国内海外の差異を説明し、洋上風力サプライチェーンの課題・展望を業界に対して訴えている。



**澤 祥雅**

弁護士法人 大江橋法律事務所  
弁護士・ニューヨーク州弁護士

**OH-EBASHI**

大江橋法律事務所

大江橋法律事務所は、1981年に設立された法律事務所であり、現在、弁護士数は約150名で、東京、大阪、名古屋、上海に拠点を有しています。日本経済新聞社が実施した、クライアントが選ぶ「頼りがいのある法律事務所ランキング2022」において5位に選ばれました。

コーポレート・M&Aを専門分野とし、再生可能エネルギー分野のM&A案件について豊富な経験を有する。直近では、メガソーラー建設工事差止訴訟の事業者代理人を務めるほか、国内外の事業者を依頼者として、洋上風力発電事業に係る合併契約の交渉、タービン供給契約等の各種事業関連契約の作成・レビュー、漁業権者等の周辺住民との折衝サポートなど、各種のリーガルアドバイスを行っている。

洋上風力発電事業と漁業関係者の権利を整理した「Offshore Wind Power Projects and the Rights of People Engaged in Fishery」を執筆。



**クリストフ・デウエインガルト**

ブライドン・ベカルト・ロープ・グループ  
合成繊維索部門 ゼネラルマネジャー

**BRIDON · BEKAERT**  
THE ROPES GROUP

社は、ウインドファーム規模のパフォーマンス、信頼性、およびコスト目標の達成に役立つ合成係留索ソリューションの大手メーカーです。当社の製品は、日本、ノルウェー、スペイン、フランスでのいくつかの先駆的な浮体式風力実証プロジェクトで使用されています。また、ユーロネクストに上場している NV Bekaert グループの一員であり、72 개국で事業を展開しています。

学歴:機械工学修士(ゲント大学)&一般経営学修士(フレリックビジネススクール)

キャリア:2011年にBekaertに入社し、さまざまな役職を歴任しました。ビジネス開発・プロダクトマネージャーから、プロダクトマネージャーおよびグローバルセグメントリードを経て、現在の役職に就いています。





## フレデリック・エミール・シゲッティ

オーステッド  
浮体式洋上風力発電プログラム・マネージャー



オーステッドのビジョンは、完全にグリーンエネルギーで動く世界です。弊社は、洋上および陸上の風力発電所、太陽光発電所、エネルギー貯蔵施設、再生可能水素・グリーン燃料施設、バイオエネルギープラントの開発、建設、運営を行っています。さらに、「科学ベースの目標イニシアチブ(SBTi)」によって検証された科学ベースの正味ゼロ排出目標を持つ世界で初めて検証されたエネルギー企業でもあります。デンマークに本社を置くオーステッドは、約7,700名の社員を雇用しています。

フレデリックは、オーステッドの浮体式風力発電のコマーシャル・プログラム・マネージャーとして、オフショア事業全体の浮体式風力の戦略的・商業的実現をリードしています。

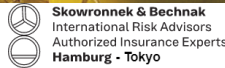
以前は、オーステッド社とJVパートナーのScotWindプロジェクトであるStromarにおいてリーダーシップを発揮し、2022年初頭にリース契約を獲得しました。

オーステッド入社以前は、Bain & Companyの経営コンサルタント、デンマーク財務省の課長などを歴任。



## ラルフ・スコロネック

スコロネック & ベヒナック ジャパン株式会社 共同代表  
WFO浮体式洋上風力委員会 保険分科会 議長



WFOは、リスク配分、保険条件の交渉、または新技術の保険可能性とその後のプロジェクトのパンカビリティの実現を目指す当事者のために行動するアドバイザーです。私たちはこの分野において50年の経験を有し、保険会社に提示された新しい技術に関して、そのような技術を保険可能にすることを支援します。これは、外部資金を獲得するために必要な事柄です。

100以上のプロジェクトと37GWの洋上風力発電に関与しており、リスクと保険(再保険)のアドバイザーと共に、保険デューデリジェンスを提供し、洋上風力発電プロジェクトのレンダース保険アドバイザーとしての役割を果たしています。

1993年から保険エンジニアとして電力・公益事業および建設保険部門に従事し、2007年から2018年までMarshで再生可能エネルギーの実践リーダーとして勤務し、2019年からは、Skowronnek & Bechnak International Risk and Insurance Advisorsを設立して、リスク戦略を設計し、ブローカーが主要な洋上風力発電プロジェクトの保険をうまく設定できるようにしています。

また、WFOの小委員会 (Insurance and Relationship) のチェアマンをつとめ、JNRC (Lloyds Market Association London) のオフィサーでもあります。

アジア、特に日本で、落雷を含む自然災害のリスクが洋上風力発電プロジェクトの保険で適切にカバーされるようにするソリューションの提供に注力しています。



## 小林 宏章

東京海上日動火災保険株式会社  
船舶営業部 海洋開発室長



1879年の創業以来、東京海上日動は長年にわたり保険事業で培った知識と経験をいかして、社会に「安心と安全」を提供し、社会の発展に貢献して参りました。気候変動への対応としてお客様のGXを支援する様々な取り組みにも力を入れており、「洋上風力発電向けパッケージ保険」をはじめ、再生可能エネルギー発電事業者等を取り巻く様々なリスクを補償する保険商品を提供しています。

1997年、慶應義塾大学法学部政治学科卒。東京海上火災保険(株)入社。2010年、早稲田大学大学院ファイナンス研究科修了(ファイナンスMBA)。海洋石油天然ガス開発保険を長く担当し、海洋プロジェクトのリスクと保険に詳しい。上海北京駐在、メルボルン駐在を経て、2017年から洋上風力保険・海洋石油天然ガス開発保険を統括。2020年から東京海上日動火災保険(株)船舶営業部海洋開発室長。全世界の洋上風力保険引受プロジェクト数を60超に拡大、日本国内港湾洋上風力プロジェクト保険を幹事として引き受け、プログラム運営を行う。



## 小谷 慎也

ソシエテ・ジェネラル銀行 東京支店  
エネルギープラス部 部長



ソシエテ・ジェネラルは欧州最大の金融サービスグループです。多角的かつ総合的なバンキングモデルを採用し、強固な財務基盤とイノベーションにおける高い専門性を活かして、持続可能な成長を目標とする経営戦略を実行しています。ソシエテ・ジェネラルは、世界の地域社会と経済に有益な変化をもたらすことに尽力しており、責任ある革新的な金融ソリューションを通じて、日々お客様とともに良い持続可能な未来を築くことを目指しています。ソシエテ・ジェネラルは、確固たる地位を築いている欧州を拠点に世界に広がるネットワークを通じて150年以上にわたる世界経済において重要な役割を果たしています。世界66か国の拠点に11万7,000人を超える従業員を擁し、2,500万の個人、法人、機関投資家のお客様に様々なアドバイザーサービスと顧客ニーズに合わせた金融ソリューションを提供しています。

ソシエテ・ジェネラル銀行 東京支店におけるプロジェクトファイナンスの責任者として、日本を中心としたアジア地域における再生可能エネルギー・水素/アンモニア等含むエネルギーセクター全般のファイナンスアドバイス及び組成業務に従事。2022年まで新生銀行プロジェクトファイナンス部に在籍。近年は日本含む国内外の洋上風力プロジェクト向けのファイナンスアドバイス及び組成業務に注力。





## ロドリゲス・アロンソ・ペラヨ

OW(Ocean Winds)  
日本代表



EDF Renewables と ENGIE の戦略的提携から生まれた Ocean Winds は、世界中の洋上風力発電所の開発、資金調達、建設、運営を行っています。16.6 GW の総容量の現在のポートフォリオを持つ Ocean Winds は、世界のエネルギー移行における主要なリーダーです。

Ocean Windsの日本代表兼ビジネスイニシアチブマネージャーです。2010年からアジア太平洋地域に拠点を置き、太陽エネルギーと風力エネルギーの経験があります。

オビエド大学で法学修士号、UPFバルセロナ経営大学院で MIBを取得し、マドリッド弁護士会(ICAM) の登録弁護士です。



## エリザベス・パリクス

イーディーエフ・リニューアブルズ  
洋上風力技術部門 APAC技術責任者



EDFリニューアブルズは、再生可能エネルギー発電所の開発、建設、運営を行う国際的なエネルギー企業です。世界的なエネルギー転換における主要なプレーヤーとして、重要な価値創造的なプロジェクトを積極的に展開しており、各国・各地域の皆様への不断のコミットメントのもと、専門的な知識と革新的な能力を以って気候変動問題に取り組んでいます。30年以上にわたり日本と良好な関係を築いてきたEDFグループの一員として、日本のパートナーとの洋上風力発電プロジェクトの共同開発を通じ、海外プロジェクトへの投資機会や22カ国で得られたノウハウを共有する等、私たちは、皆様と共にグリーンエネルギーを日本へ供給するその時まで、全力を尽くすことをお約束します。

EDF Renewablesのアジア太平洋地域のオフショアテクニカルリードです。石油とガスから再生可能エネルギー分野まで、オフショア産業で20年以上働いており、初期の開発から建設までのプロジェクトに携わってきました。

土木工学のバックグラウンドを持ち、オフショアの地盤工学に関する専門知識を持っています。EDF Renewables内で、彼女は技術的専門知識をフランスの最初の3つの洋上風力発電プロジェクトにもたらしました。これらのプロジェクトは現在運用中/高度な建設段階にあります。

現在の主な役割は、アジアとオーストラリアにおける自社の見通しとプロジェクトの技術活動を調整することです。



## 阿部 伸一郎

Ramboll Japan株式会社  
日本支社長



Bright ideas.  
Sustainable change.

1945年コペンハーゲンで設立されたエンジニアリングコンサルティング企業。36カ国に拠点をもち17000名のコンサルタントが「持続可能な社会を目指すパートナー」としてサービス提供を行っている。洋上風力分野では30年以上にわたり世界の半数以上のプロジェクトで基礎設計やアドバイザーを提供している。

Ramboll日本法人カンントリーディレクター。1997年より陸上・洋上風力発電を始め再生可能エネルギープロジェクトの事業開発に携わり、日本、欧州をはじめ世界各国で再生可能エネルギープロジェクトに取り組む。2021年4月より現職。



## 野口 哲史

一般社団法人 日本埋立浚渫協会技術委員会 委員長  
(五洋建設株式会社 土木本部 取締役専務土木本部長)



一般社団法人  
日本埋立浚渫協会

本埋立浚渫協会:日本の海洋土木大手建設会社により構成される一般社団法人。港湾空港等の海洋土木工事の計画、設計、施工、維持管理に関する知見を有し、広く港湾建設産業の発展に寄与する。

五洋建設株式会社:港湾建設産業の日本のリーディングカンパニー。土木、建築、国際の3分野でバランスよく構成され、最近では洋上風力建設へ注力する。

1983年五洋建設株式会社入社、羽田空港D滑走路工事JV共通管理グループ長・土木営業本部土木プロジェクト部長・名古屋支店長を経て2016年一般社団法人日本埋立浚渫協会 技術委員長就任、2018年より現職。京都大学卒業、大阪府出身





## 杉山 正幸

株式会社商船三井 エネルギー営業本部  
電力・風力エネルギー事業群第二ユニット長



各種ばら積み船、原油タンカー、LNG 船・オフショア海洋事業、メタンールタンカー、ケミカルタンカー、プロダクトタンカー、自動車船、フェリー、RORO船など、多彩な分野で時代の要請に応える総合輸送グループです。世界最大級の船隊と140年近い歴史で培った経験と技術を基に、強しなやかな企業グループへと常に進化しながら、地球全体を舞台として、世界経済の発展に貢献します。

商船三井においてCTV、SOV、SEP船、ケーブル敷設船事業 および 風力発電事業への投資など、洋上風力発電関連事業全般を担当。

1993年4月に新卒で同社に入社し、船舶運航管理、用船、営業、船隊計画などの多様な業務に従事。主にLNG船、原油タンカー、一般炭輸送船など、エネルギー輸送分野を経験し現職に至る。



## 山田 正人

MHIベスタスジャパン株式会社  
代表取締役社長



三菱重工とベスタスの協業の歴史は2014年4月にさかのぼります。それまで30年以上国内外で競合していた二社が対等出資でMHI Vestas Offshore Wind社を設立し、7年余にわたる設計・開発・製造・営業・据付・保守の分野での協業を通じて、世界の洋上風力発電の競争力向上に目覚ましい貢献を果たしてきました。両社の協業の進化系として、2021年2月に設立され、日本市場向けに、ベスタス社製風力タービンの総代理店としてソリューションを提供するのが私たちMHIベスタスジャパン株式会社です。

1987年、三菱重工業に入社。大型火力発電プラント、風力タービンの営業、事業開発を経て、2014年、三菱重工とデンマークのヴェスタス社の合併による洋上風力タービン・メーカー、MHI Vestas Offshore Windの設立に伴い、副社長最高戦略責任者としてデンマークに赴任。6年にわたり事業戦略、広報、政策関係を統括したのち、2020年4月に副社長アジア太平洋地域統括として帰国する。2021年2月にベスタスの総代理店、MHIベスタスジャパン株式会社設立に伴い現職に就任。2020年6月から日本風力発電協会（JWPA）副代表理事。



## 大川原 和宏

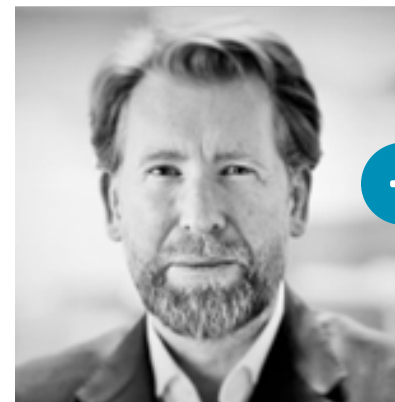
ジャパンマリンユナイテッド株式会社  
営業本部 海洋・官公庁船営業部長



商船、艦艇、海洋・エンジニアリング、ライフサイクルの4つの事業を展開する造船業のリーディングカンパニー。

1999年より浮体式洋上風力発電についての研究を行い、福島浮体式洋上ウインドファームのEPCIおよび撤去実証を手掛けた実績を持つ。現在は大型風車対応の自社セミサブ浮体デザインを展開し、事業を推進している。

平成2年4月石川島播磨重工業株式会社入社  
平成16年7月同社物流・鉄構事業本部鉄構営業部課長  
平成19年4月株式会社アイ・エイチ・アイマリンユナイテッド船舶海洋営業部課長  
平成23年4月同社艦艇・官公庁船営業部官公庁営業グループ課長  
平成25年6月ジャパンマリンユナイテッド株式会社艦船事業本部営業部特殊船営業グループ長  
平成30年4月同社営業本部官公庁船・特殊船営業部官公庁船・特殊船営業部グループ長  
平成31年3月同社営業本部官公庁船・特殊船営業部長  
令和2年11月同社営業本部海洋・官公庁船営業部長  
17成23年から福島実証事業を経験し、その後、官公庁船・特殊船に注力、令和2年に洋上風力の分野に再び戻ってきました。  
□ 本海は将来のグリーンなエネルギー源の宝庫で、浮体式洋上風力発電が、その活用の一歩になることを期待しています。



## ブルーノ・ゲシェ

BWイデオール チーフセールス & マーケティングオフィサー  
WFO浮体式洋上風力委員会 委員長



BW Ideol は、Ideol S.A. の特許取得済みの浮体式洋上風力発電技術とエンジニアリング能力に基づく浮体式風力発電プロジェクトの設計、実行、開発で12年以上の経験を持つ浮体式洋上風力発電の完全統合型プラットフォームです。同社は、フローター EPCI およびメンテナンス サービス プロバイダーとして、また風力発電プロジェクトの開発者および共同所有者として、二重の成長戦略を持っています。BW Ideol は、フランスと日本で稼働中の本格的な洋上浮体式風力タービンを2基保有しています。日本では2GW以上であり、オフショアエネルギー生産システムの開発と運用におけるBW オフショアの豊富な経験によってサポートされています。

BW IDEOLの最高販売およびマーケティング責任者であり、WFOの浮体式洋上風力委員会の委員長を務めています。また、WindEurope の Floating Offshore Wind Work Group の主導権を握り、3年間議長を務めました。

IDEOLの実証済みの浮体式風力発電技術とプロジェクトの共同開発能力を宣伝するだけでなく、世界中の政策立案者、金融機関、資産開発者、および公益事業に商業規模の浮体式洋上風力発電を提唱することにほとんどの時間を費やしています。

米国、アジア、ヨーロッパの洋上風力発電イベントで定期的に講演者および議長を務めており、8年前に開始した浮体式洋上風力発電（FOWT）に特化した世界最大かつ主要な年次イベントの科学および技術 / プログラミング委員会の議長を務めています。



# その他（開催者・共催者）



## 池内 敬

REASP 代表理事  
(東急不動産株式会社取締役専務執行役員)

1989年 東急不動産株式会社入社  
2021年 一般社団法人再生可能エネルギー地域活性協会代表理事(現任)  
2022年 東急不動産株式会社取締役専務執行役員戦略事業ユニット長(現任) 東急不動産ホールディングス株式会社執行役員(現任)  
2022年 一般社団法人再生可能エネルギー長期安定電源推進協会代表理事(現任)



一般社団法人  
再生可能エネルギー  
長期安定電源推進協会

2012年より電気事業者による再生可能エネルギー電気の調達に関する特別措置法に基づき、再生可能エネルギーの固定価格買取制度(以下 FIT制度)が始まり、我々再生可能エネルギー事業者は継続的に事業を拡大してきました。国民の負担により整備された再生可能エネルギーの発電所がFIT制度終了後も発電を継続し続け、安価でクリーンな主力電源として日本の財産となる事で初めて、現在の国民負担が意味ある未来への投資となります。今後はFIT制度に頼らず、国民負担を低減しながら、主力電源と新たに位置づけられた再生可能エネルギー事業を拡大する必要性がより高まっています。将来に渡って再生可能エネルギー発電事業者として発電を継続するために、発電事業者が集い協力し、現在の課題を克服し将来の日本のエネルギーのために英知を結集する必要があります。

日本における主力電源としての再生可能エネルギーを長期安定的な電源として普及促進し、エネルギー安全保障と国民生活に寄与するため、事業者団体として再生可能エネルギー事業の継続と将来に向けて安価でクリーンな電力供給を目指すことを目的とします。



## 渡辺 さゆり

世界洋上風力フォーラム(WFO)  
日本代表

2006年あおぞら銀行入社。2013年に再生可能エネルギー業界に転職し、発電事業者及び風車機器メーカーにおいて太陽光・陸上風力プロジェクトを担当。2018年K2 Managementドイツ・ハンブルグ支店に入社し、建設・試運転期間のドイチェ・ブッフ洋上風力プロジェクト (252MW, 8.4MW x 31 WTGs)、また事業者選定公募の洋上風力事業などに携わる。  
2021年9月より、洋上風力の世界的な拡大に貢献することを活動目的とする非営利法人World Forum Offshore Wind(世界洋上風力フォーラム)での勤務を開始。2022年1月より東京勤務。



WORLD FORUM  
OFFSHORE WIND

世界洋上風力フォーラム(WFO)は、洋上風力の世界的な拡大に貢献することを活動目的とする非営利の業界団体です。WFOの100を超える国際的なメンバーは、洋上風力プロジェクトの開発事業者、機器等の製造またはサービスを提供する企業を含め洋上風力のサプライチェーン全体を網羅します。WFOはドイツの会社法上の非営利団体(eingetragener Verein (e.V.))「登記社団」として法人登記されており、ハンブルグ、台北、ニューヨーク、東京にオフィスを持ちます。

WFOの洋上風力に特化したグローバルな活動は政府機関や国際的な会議の場へのアクセスを可能にし、新しい洋上風力市場の発展や世界的な洋上風力の成長を推し進めてきました。これに加えWFOは、(1) 4つの小委員会(保険、係留装置、運営・管理、ケーブル&浮体式発電所)から構成される「浮体式洋上風力委員会(FOWC)」、(2)「洋上風力紛争解決委員会(ODRC)」および(3)「洋上風力水素委員会」といった最先端技術の議論の場を提供しています。



## デビッド・チェン

世界洋上風力フォーラム(WFO)  
台湾代表

国際的な広報活動や戦略的マーケティングを専門とし、政府、産業界、投資家、一般市民の橋渡しを行う。10年にわたる非営利団体での経験を生かし、ビジネスチャンスを生み出す効果的なプラットフォームを創造的に構築し、また政府プロジェクトの実行にも貢献。創造性、論理性、明確な戦略を立てることを得意とする。  
現在はドイツ洋上風力イニシアチブ(GOI)プロジェクトおよび世界洋上風力フォーラム(WFO)の台湾代表として、洋上風力産業の発展を促進する役割を担う。南アフリカ ケープ半島工科大学でホスピタリティマネジメントのパカロリア資格を取得。